

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



ふるさと交流会 in 犬山

5月5日（日）、四城しかない国宝（松本城、姫路城、犬山城、彦根城）のひとつで、織田信長の叔父・織田信康が築城した、現存する日本最古の犬山城をみたいという小学3年生の娘の希望で、「ふるさと交流会 in 犬山」に参加しました。

ゴールデンウィーク中ということや城下町散策ということで、参加者は少ないのではないかと心配していましたが、10世帯の参加がありました。

午前中は、犬山市役所にて実行委員会の方々の挨拶から始まり、参加者が思い思いに交流をすることが出来ました。タイ式マッサージは、とても気持ち良かったです。「はな笛」という珍しい笛の音も、聴くことが出来ました。

午後は手作り体験毎に分かれ、城下町を散策しました。娘は「とんぼ玉」作り体験をしました。今まで見たこともない、真剣な眼差しで作っ



ていました。（笑）

ゴールデンウィーク中ということもあり、登閣までに1時間以上もかかるということでお城を見ることは諦めましたが、親子共々とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

私は交流会に参加して、沢山の方とお話しをするだけでいつも心が軽くなり、また明日から頑張ろうという気持ちになります。本当にありがとうございます。感謝の気持ちで一杯です。

（根本美佳 豊川市 在住）



めぐりあいの会

昨年12月に、震災、原発事故による県外避難者の自主グループとして、「めぐりあいの会」というものを立ち上げました。

何の会なのか？ と申しますと、一言でいえば楽しい交流会をしよう！ という会です。支援センターからの定期便でお知らせに入る、『めぐりあい交流会』というのを目にしたことがありますでしょうか？ 昨年から、お花見、キャンプ、バーベキュー、いも煮会など、一年を通して交流会を開催してきました。参加人数はすこしずつ増え、今年4月のお花見は、たくさんの方々でにぎわいました。おいしい食べ物にお酒もあり、舞台の催し、子どもたちには学生のボランティアの方々が楽しいプログラムを用意して下さい、いつもお祭りのよう、楽しく、美味しく、賑やかな交流会です。

これまで、名古屋キリスト教社会館の方を中心とする支援の方々と、避難してきた私たちとで、毎回実行委員会を立ち上げ開催してきました。約1年を過ぎ、この交流会を続けていく会をつくることになりました。現在「めぐりあいの会」は、福島県からを主に十数名の避難者と支援の方数名で活動しています。代表の江本潤子、副代表の高橋貴子は、ともに福島県南相馬市から避難しています。事務局は名古屋市南区にある、名古屋キリスト教社会館が担ってくれています。

「めぐりあいの会」で行う交流会の一番の柱は、とにかく楽しい会を、大人も子どもも、避難者も、支援者も、一緒に楽しい時間を過ごそう、ということです。みなさんそれぞれ大変な何かを抱えています。でも、むずかしいことは

さておき、みんなで楽しみたい、という思いが一番です。

私たちは、震災の被害も様々、失ったものも様々、そして原発の被害は広く、たくさんの被害区域の線引きをされ区切られ、お互いの状況を思いやることはできても、それぞれが理解しあい、共感しあうのはとても難しいと感じています。それでもお祭りみたいに楽しい時間なら、いっしょに楽しむことはできると思うのです。回数を重ね、つながりを作っていくことができると思っています。

いつも、あれが食べたい、これがやりたいと言っただけで、ほとんど支援の方に頼ってばかりの状況なのです。これからはたくさんの方の手を借りて、助けてもらいながら、みんなが楽しめる交流会を開催したいと思います。こんなことしてほしい、これが食べたい、舞台の催しに出演したい、などありましたらぜひ、お知らせください。

7月には昨年も行いました、郡上八幡の小那比でのキャンプを予定しています。1泊2日の、楽しいことが目白押しのキャンプです。ぜひぜひご参加ください。

お問い合わせ、ご連絡などは事務局までお願いします。

事務局：

名古屋キリスト教社会館（担当：谷川）

e-mail： meguriai@shakaikan.com

TEL： 052-612-3370

（めぐりあいの会 代表 江本 潤子）



3.11ing

被災地や東日本の子どもだけでなく、全国の子どもを対象とした検査の必要性を強く感じ、子どもの健康を守りたいという同じ意識の愛知県民と被災者が集まって、活動を始めました。「2011. 3. 11から何も終わっていない、今も現在進行形」という意味を込めて、「3.11ing」と名付けました。

福島第一原発の廃炉は世界的にも前例のない作業となり、今後何十年にも渡って放射性物質は垂れ流され、その影響による健康被害は全国レベルに広がるであろうことは否めません。

今福島県で行われている甲状腺検査は、結果を重視せず異常の発見をごまかすかのような内容です。また甲状腺以外の身体的影響の検査については、まだまだ不足しています。福島県以外の東日本の子どもについては、検査すらされていません。そんな中、ここ愛知県の子どもからも尿検査でセシウムが検出され、東日本以外の地域でも甲状腺検査の必要性を強く感じています。

私たちは今のところ活動費も持ち合わせない団体ですが、身の丈に合わせてなるべくお金を使わない方法で活動しています。

これまでの取り組みは、「子ども・被災者支援法」に関する要望書と、住宅支援に関する要望書を提出し、行政への働きかけを続けています。

また、健康被害については、甲状腺検査を受け

られる病院のご案内をしています。併せて、あくまで任意で検査データの提供をしていただき、集まったデータは専門家に解析をお願いしています。

支援活動としては、「ふくしまキッズTシャツ」の委託販売をさせて頂いています。このTシャツの売り上げは、「沖縄・球美の里」で取り組まれている、福島県の子どもたちの保養プロジェクトの為に全額寄付します。

また、今後、交流の場としてのお茶会の開催や、国会議員と連携しての勉強会などを予定していますので、準備が整い次第ご案内させていただきます。よろしければご参加下さい。

毎月1回一宮でミーティングをしています。ご興味・ご関心持って頂いた方はどうぞお気軽に遊びに来てください。

※現在は会費なども募らず、お金のかからない運営を心掛け、規約や会則などありません。この点については、今後時期を見て、集まったメンバーで話し合っ、考えていこうと思っています。

お問い合わせ

事務局 松原 秀臣

住所：名古屋市名東区香流 3-419

TEL & FAX：052-774-1615

E-mail：mattu777@tg.commufa.jp

(3.11ing 代表 松山 要)

— 平成 25 年度 東日本大震災義援給付奨学生の募集について —

すでに学校より案内があったかもしれませんが、まだの方がいらっしゃいましたら、在学している学校におたずねください。

事業名：東日本大震災義援給付奨学生事業（公益財団法人 日本教育公務員弘済会 愛知支部）

目的：東日本大震災によって被災し、やむなく愛知県内において避難生活をしている児童・生徒を継続的に支援します。

対象：岩手・宮城・福島及び青森・茨城・栃木・千葉の7県から、愛知県内の公立小中学校、公立高等学校・特別支援学級に転入している児童・生徒

給付金額：1名につき、各年度 20,000 円

募集期間：平成 25 年 6 月 3 日（月）～ 平成 26 年 2 月 28 日（金）

あいちトリエンナーレ参加アーティストから取材を受けて 1

東日本大震災からちょうど 2 年経った頃の 3 月下旬、あいちトリエンナーレ参加アーティストのニナ・フィッシャーさんとマロアン・エル・サニさんから作品作りの協力依頼がありました。

愛知県へ自主避難してきて 1 年が過ぎようとしていた私にとって、震災のことや震災後の社会や自分自身の心境の変化を整理しながら、自分の考えを語ることができることは、政権交代もあった日本社会における未来について、考えを深めることができる良い機会なのではないかと思い、快諾いたしました。

ニナさん、マロアンさん共に朗らかで優しい目をしており、被災者である私に気を遣い、且つ真剣に原子力エネルギーの将来性の問題と環境や人体に対する影響を憂える様子が、大変印象的でした。

お二人からは 4 つの質問を投げかけられ、それに私が答えている様子を撮影してもらうという形で取材が進行したため、いささかの緊張と話したいことが後から後から溢れてくるという有様でしたので、いくばくか思い残りの部分もありました。

さて、その質問とは「震災当日の様子」「震災後から自主避難を決めた動機」「愛知県での生活について」「今後の社会について」というもので、私にとって最後の質問が最も自分自身のこれからの生き方を考える大切な質問でした。

自主避難直後は生活を立て直し、とにかく自身の子供たちにとって、「避難はまちがっていない」と思ってもらえるように努めてきました。福島を離れたことが正解であったと思わなくてはならないと、どこかそんな思いに駆られながら愛知の生活を楽しむことばかり考えていたように思います。

しかし、愛知での生活が楽しければ楽しいほどに、福島に置いてきた思いや仲間のことが心配になります。3 月上旬に 1 度だけ福島に戻り、生活していた頃と同僚や教え子に会い、人や町の様子を伺いました。皆素直で良い子どもに育っている様子です。これは一見良いことのようにですが、その「素直」の裏には「大人も子どもも我慢しているんだ。私がわがまま言ってどうするんだ」という思いが隠れているようで悲しくなり、子育てや教育の環境としての疑問が湧き上がりました。

物言えぬ環境は、多くの危険性をはらみます。想像力の生かせない社会も健全ではありません。次世代を担う若い人々が憂えることなく、自分自身の人生を歩んでいくことができる社会にしたいものです。

そんなことを再認識させられた、今回の作品協力でした。完成・鑑賞が楽しみです。

（小野 佳奈 岡崎市 在住）

名古屋のご当地紹介

名古屋には、珍しい地名や読めない地名がいっぱいあります。そんなご当地をご紹介します。

・どうとく 道德 - （名古屋市南区）

文字通り「道德」（モラルの意味）に由来するれっきとした地名である。文化 9 年（1812）に、それまであった御替地新田を「おかえちしんでん 道德新田」と改称したことにある。御替地新田は尾張藩が農民のために替地として与えたもので、その方針が「道義を以て得を施す」であったことから「道德」という新田名に変えたのだというところから由来している。

出典：名古屋地名の由来を歩く 著者：谷川彰英 出版社：ベストセラーズ

（編者 井川 真一 名古屋市西区 在住）

あいちトリエンナーレ 2013 の取材を受けて 2

3月末に「あいちトリエンナーレ 2013」に出展される、映像作家のニナ・フィッシャーさん、マロアン・エル・サニさんの取材を受けてきました。

インタビューを受けながら、震災後に感じた将来の不安など、今まで封印していた思いがあふれてきて泣いてしまいましたが、少しずつ心が落ち着いてくる感じもしました。3.11 から 2 年が経ち、心の整理ができてきたのだなと思えました。

インタビューの最後に、「こうなって欲しい」と思う世の中について話した後、1 分間、外の景色を見ながら、「こうなって欲しい」が現実になったのをイメージする、ということをしました。イメージが終わってからの自分の映像をみせてもらったのですが、（我ながら）とてもいい表情だなと思いました。この 2 年間、生きている幸せは強く感じてきたけれど、目の前のことに必死で、未来への希望を思うすき間をつくらなかったなと気づけました。「こうなって欲しい世の中。安全で自然と共存できるエネルギーだけで暮らせる世の中。子ども達とそんな世の中をつくる」、ワクワクとした強い思いがあふれてきました。

インタビューの一週間後、ニナさん、マロアンさんから誘いがあった、映画「生きものの記録」を題材とした、ワークショップにも参加しました。核への不安と向き合う主人公は、今の自分と痛いほど重なり、ネガティブな感情がそのままに表現されていて、上映後は重くツライ気持ちで心がつぶれそうでした。さらにその後すぐに話し合いを求められたのが、とてもキツかった。なぜ、そんなにサッと気持ちを切り替えられるのか不思議でした。

ワークショップの参加者の大半が東海地方の人で、被災者で参加していたのは、私ともう一人だけ。話し合いの内容も、登場人物への思いや、映画の構成についての意見が多く、放射能への危機感には話題が進みませんでした。何とか 3.11 にからむ話になるようにと、私達も自分の体験をオープンにしましたが、反応はいまひとつ。何だか上滑りしている感じがしてなりませんでした。一番印象に残っているのは、「東海地方も大きな地震がくると言われているのに、多くの人が危機感を持っていない。見ていて歯がゆい」と私が言った時、ある若い女性が「そう言われるとプレッシャーになる」と泣いていたことです。危機感を持てといっても、経験のない人には難しいことかもしれません。私も阪神大震災の時はそうでした。3.11 で大きな揺れを体験し、目に見えない放射能へのパニック状態を味わったから、「歯がゆい」と感じられるのだと思います。

ワークショップはその後も数日行われたようで、ワークショップの様子も含めて出展作品にするようなので、どんな内容になっているのか、ぜひ観てみたいです。気持ちは複雑なままですが、いろいろな思いや温度差も含めて、今の日本、世界の現実を受け入れた上で、今自分ができることをコツコツとやっていこうと改めて思うことができました。そう思えたのも、一步踏み出す機会と勇気を下さった、愛知県被災者支援センターのスタッフ、ニナさん、マロアンさん、一緒にワークショップにしてくれたもう一人の被災者の方のお陰です。感謝しています。ありがとうございました。

（ペンネーム チャコ）



あいちトリエンナーレ 2013 の取材を受けて 3

ニーナ・フィッシャーさんとマロアン・エル・サニさんと言うドイツ人の監督が「揺れる大地 - われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」をテーマに映像作品を撮るので協力して欲しいと言われ、取材を受けました。取材は我が家で、ピンマイクをつけ、カメラが回された中で行われました。

まずは自己紹介。名前、職業、出身地、そしていつ避難したか、どのような理由で離れたのか。狭い我が家に外国人が 2 人と通訳、マイクとカメラに、子ども達も何だか落ちつかない様子。私自身も多少の緊張感がありました。

自己紹介に続いて、2 人の監督は質問を考えて来ていました。「避難の決断をした時の家族、友達、同僚の反応はどうだったか」、「新しい土地で出会った人達がどのように受け入れてくれたか」、「新しい環境に来てまだ不安に思うことがあるか」、「他にも恐れがあるか」、「これからの希望」、質問はたったの 5 つでした。それぞれの質問に思う事をしゃべり、あっという間に 2 時間が経過していました。

取材は以上ですと言われてからも、あれを言っておけば良かった、これもしゃべりたかったと、あとからあとから溢れてきました。でもこの日の取材は和気あいあいとしていたし、2 人の監督も心を寄せてくれるのがわかり、温かく充実した時間を過ごせました。

この時に 4/6～8 に黒澤明監督の「生き物の記録」の上映会とワークショップがあるので、ぜひ参加して下さいと言われて、都合もあつたので 4/6 の午後だけ参加してきました。

まず、会場に入った時に違和感がありました。参加していたのは 15～6 人くらい、スタッフを入れても 20 人くらいだと思います。映画は前半を見終わっていて休憩中だったのですが、何だか居心地が悪く感じました。

それから映画の後半に入る前に、前半の振り返りをみんなでしてくれました。話を聞いても断片的で、いまいち内容を把握できなかったのですが、そのまま後半に突入。

1955 年の映画なので、見始めてしばらくは日本語なのに聞き取れないし、前半がよく解らな

いので何の場面か解らないまま見ていると言う奇妙な感覚でした。

だんだん映画の世界に入っていました。話が進んでいくうちに、しんどくなっていきました。この映画は、原水爆実験を恐れた工場長の父親が、家族を説得してブラジルに移住したいと奔走し、反対する家族からは禁治産者として裁判を起こされ、財産を押さえられ、「工場があるから家族は移住に反対なのだ」と判断した父親が工場に放火し、最後は精神病院にいて、そこを地球とは別の星に避難できたと思い込み、太陽を見て地球が燃えてると、完全におかしくなってしまう話でした。

映画の内容だけでもかなりきつかったのですが、その後のワークショップで、「この映画を見て、もし今この映画を撮るとしたら結末はどうなると思うか、みんなで話し合う」と言われた時は、久しぶりに動悸が止まらなくなり、震えて涙も次から次へと溢れてしまいました。そんなこと話し合っただうするんだと、怒りの感情も芽生えました。福島で現在進行形で事故が起こっているのに、この場所は次元が違いすぎると思いました。

避難者で参加しているのは、私ともう一人だけ。実際に放射能の恐怖と闘っている私達がなぜかアウェイな雰囲気、この場にいたくないと強く思ったけれど、私のいない場で好き勝手言われたくないと思ってしまい、言いたい事を言ってから帰ろうと残りました。私は気が狂ってしまった父親の気持ち理解できたし、実際母子避難をしていた時は狂いかけていたと思います。そして、映画の結末は今も変わらないと思うと言いました。1955 年の作品が、今の日本そのものに見えたからです。自分の問題として捉えなければ、結局何も変わらず、騒いでいる人は頭がおかしいと認識されてしまう。だから私はみんなに自分の問題として考えて下さいと伝えました。

それでも、原発がないと電気が足りないし生活レベルは落とせないと言う人がいたり、放射能の問題は大変だと思うけど、自分の興味のあることで精一杯という人がいたり、問題意識を

持とうと高校生相手にメッセージのある映像を見せたけど、結局大変だねの一言で終わると言う人がいたりしました。それぞれの意見も理解できました。私も震災を経験して初めて放射能の事、農薬や添加物の事を意識し、政治は身近なもので参加していかなければと思ったからです。

いきなり国を動かす事はできないから、まずはつながることが大切だと言う意見に対し、つながると何ができるんですかと質問があり、それは情報の共有ですと答える人がいたり、本当にいろいろな意見が飛び交いました。それでも私はここで話し合っただけで何になるんだと悶々としてしまいました。それでも私と一緒に参加したもう一人の避難者の方は、これから先科学や医療も発達して、放射能の問題を解決できる日がくればいいと、前向きな意見を言ってくれて、救われる気がしました。

全体的には何とも後味の悪い時間を過ごしました。あと 2 日ワークショップが残っているので、ぜひ参加してと言われたけど、もう来たくないに残りの 2 日は欠席しました。

立ち直ったと思っていたけど、引き戻されるとまだまだ辛いんだと認識してしまい、しばらくは暗い気持ちを引きずってしまったし、信頼

できる人に会いに行き自分の思いを吐き出すまでは、もやもやしっぱなしでした。怒りの感情もネガティブな自分も認めてあげて、そのままの私でいいんだよと言ってもらえて、初めてこのワークショップを消化できたように思います。

ただ今は感情的に言いたいことを言い放って来てしまったので、この映像作品がどのように編集され、どんな作品になるのか興味があります。カーッと自分が何を話して来たのか思い出せない部分もあるので、冷静に自分を見つめたい気もします。この作品を見て、愛知に元々いた人は何を感じ考えるのだろうと、興味があります。

避難者のみなさんは今も、それぞれの形で原発事故や津波被害の現実を受け止めなんとか消化し、未来に向けて今どう過ごせばいいかと、思いを巡らせていることと思います。一人では何もできないかもしれないけど、誰かとつながっているだけでほんの少し強くなれたり、前向きになれたりすると思います。

あいちトリエンナーレが 8 月に開催され、少しでも多くの方の気付きのきっかけとなり、つながりが増えていく事を願っています。

(匿名希望)

支援センターからのお知らせ

転居された方、登録情報の修正（世帯の一部転出・転入等）がありましたら、お住まいの市区町村の担当窓口、もしくは愛知県被災者支援センターまでお知らせいただきますよう、お願いします。また、住所表記等のまちがいなどありましたら、愛知県被災者支援センターまでお知らせください。

※愛知県被災者支援センターでは、毎月 10 日・25 日の 2 回、さまざまな情報を皆様に提供するため、定期便を郵送しています。（名古屋市在住の方には、原則、名古屋市の情報と合せて、名古屋市より毎月 15 日・翌 1 日にお届け）

愛知県被災者支援センター
名古屋市中区三の丸 3 丁目 2 番 1 号
愛知県東大手庁舎 1 階
利用時間 月～金 10:00～17:00
(土・日・祝・12/29 - 1/3 休)
TEL : 052-954-6722 FAX : 052-954-6993

被災者支援法 & 原発賠償説明会 + なんでも相談会

1. はじめに

平成 25 年 4 月 27 日、ウイंक愛知において、平成 23 年 3 月に発生した「東京電力福島第一原発事故に関する被災者支援法と原発事故の損害賠償訴訟の説明会及び避難者との個別相談会」が行われました。愛知県内に避難された 11 世帯のご家族が参加され、弁護士の話に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。また、当日は、ボランティアの方々により、子どもたちのための遊戯スペースも設けられました。

2. 被災者支援法について

まず、澤 健二 弁護士から平成 24 年 6 月に成立した、「東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律」（子ども・被災者支援法）についての説明が行われました。

この法律は、原発事故前の生活拠点を失った被災者の生活基盤支援を主な目的とするとともに、長期間の支援の必要性和国の責務を示したものであるものの、現時点では具体的な支援策を欠いていることや、この法律に対応する予算も付いていない状態であること等の説明があり、全体として、被災者の方々の声が十分に反映されていないとの指摘がありました。

3. 原発事故の損害賠償請求について

次に、福島原発事故損害賠償愛知弁護団の副団長である堀 龍之 弁護士から、東京電力と国を被

告とした損害賠償請求訴訟についての説明がありました。

弁護団では今年 6 月を目途に集団提訴を予定しており、その基準として①年間の放射線量が 1mSv 以上の地域の避難者を対象とすること、②事故により生活基盤を失ったという共通の精神的損害に着目し、避難者 1 人あたり慰謝料として 1,000 万円を請求すること、③財産上の損害については別途個別に請求すること、④ 2, 3 年のうちに一定の結論を得たいこと、等が説明されました。

4. 個別相談

説明会の後、弁護士 2 名 1 組で避難者の方からの相談を受けました。避難者の方からは、損害賠償についての具体的な質問が多く寄せられました。

5. おわりに

避難者の方の中には、東電に対して当然請求できるとされる費用について、原発事故発生から今日まで何も請求をしていないという方がいらっしゃいました。弁護士としては、ご自身だけで判断してあきらめるのではなく、ぜひ気軽に弁護士に相談していただきたいと思います。

今回説明のあった損害賠償請求の集団訴訟等についてご質問がある方は、ADR の担当弁護士または、福島原発事故損害賠償愛知弁護団事務局（電話 052-508-5601）まで、ご連絡下さい。

（弁護士 不破 佳介）



「マクロビオティックが効く！

家族を内部被ばくから守る食事法」

作者：岡部賢二（ムスビの会主宰）

出版社：廣済堂出版

原発の事故後、「内部被ばくを防ぐためには、昆布や味噌、黒米を食べた方がいい」という情報を、多くの人が耳にしていたと思います。私も積極的にとってきましたが、なぜそれらが被ばくを防ぐのかは、何となくしか知りませんでした。この本は、それをとても分かりやすく説明してくれています。放射能がどう体に影響があって、被ばくすると体ではどんなことが起こるのか… 私の中では、「放射能 = ガン」になるという漠然とした認識でしたが、本では病気になるまでの経過がシンプルに書かれていて、とても納得できました。経過が分かると対処法や予防法も具体的になり、「こうすれば大丈夫」という方向が見えてきて、不安や恐怖が少なくなりました。どんなこともそうですが、「何となく怖い」が一番怖いと感じました。

「マクロビオティック」とはよく聞くけどどういうこと？『マクロビオティックとは、すべての事象が「陰」と「陽」というふたつのエネルギーで成り立っているという世界観をベースにした食養道』（本文より抜粋）とのこと。体、食材、放射能、病気、全てが陰陽や、「五行」というルールで説明されているので、専門知識がなくても理解しやすいです。例をあげると、「放射能は陰性

の働きがあるので、陽性の食べ物でバランスをとる」という感じです。

そして、放射能で傷ついた細胞を修復しながら、内部被ばくに対抗できる強い体をつくるのに効果があるのが、昔ながらの和食メニュー。野菜中心で食物繊維の多い食事が、体に入ってしまった放射能を早く外へ出すことができます。バランスのよい食事や和食が体にいい。それも何となく分かっていたことですが、ルールに乗せてみると、体のしくみとつながって腑に落ちました。

本を読み終えて、昔からいいと言われてきた発酵食品などの伝統食が、内部被ばくにも効果があると実感できました。高価なサプリメントを買ったり、食事の内容を大きく変えたりしなくても、少しずつ懐かしい食事に変えていくことから始めればいい。長く続けられることが、何よりも大事だと思います。本の最後にあった言葉ですが、ネガティブな感情は猛毒ホルモンが分泌されて免疫力が落ちてしまうそうです。食べ物によって体内の放射性物質も排泄できるしくみを知ること、不安も減ります。

「伝統食を食べながら、生かされていることに感謝して生きる。それで免疫力も自然にあがる」食にしても、エネルギーなどの環境にしても、原発の事故を教訓にして、原点に戻れというメッセージに聞こえてきました。

（愛知県被災者支援センター

編集委員 山本 由香）



/// Locco Loco (ロッコロコ) の おやつ (再掲) ///

素材の持ち味が生きた、やさしい甘み。心惹かれるかわいデザイン。安心で美味しく楽しいおやつ。小さな贈り物にも最適です。

基本の価格は、クッキー・クラッカーで 60 グラム 280 円。スコーン 2 個 280 円。

小麦粉は愛知県産、油はオーストラリア産非遺伝子組み換え・圧搾しぼり菜種サラダ油、甘みはきび砂糖、黒砂糖、国産純粋はちみつ(岐阜県産など)・米水飴・本みりん。野菜・豆類は国産無農薬(なるべく地場産のもの)、塩はシママース。卵、乳製品、白砂糖は使っていません。

小さな工房でご夫婦が手作りしていらっしゃいます。工房では小売はせず、取扱店のみの販売となります。常時置いてあるお店は、旬楽庵 八幡店(一宮市八幡 4 丁目 1 番 1 号 0586-46-1851)、旬楽庵 地アミ店(名古屋市名東区若葉台 1402 052-760-3071)、旬楽庵 日進店(日進市竹の山 4 丁目 402 0561-76-3117)、覚王山・木のおもちゃ専門店 ゆうほ、ながくて食と農の広場 あぐりん村(長久手市前熊下田 134 0561-64-2831)、売り切れの場合はご容赦ください。

時々置いてある店は、カフェ Kogami(名古屋市天白区原 2-3501 おがわビル 1 階 052-808-9810)、スギヤマ 薬局御器所店(名古屋市昭和区阿由知通 4-7 052-842-2112)。

住所: 名古屋市千種区楠元町 1 丁目 53-3
TEL: 052-734-7948

食品

/// おうち菓子 madam an ///

ケーキとお菓子のお店で、目指すところは「駄菓子屋」というオーナー。クッキー、マドレーヌ、フィナンシェ(ハト味噌味有)、入り口にかけられたお菓子はどれも 1 個 100 円。手づくりケーキも数種類あり、テイクアウトもできます。

生クリームや牛乳は「飛騨牛乳」を使用し、あとはなるべく地産のものを使用しています。

近所の子供もたちも飾らないオーナーの人柄に、とてもなついている様子です。

地下鉄鶴舞線「川名」駅 4 番出口より徒歩 8 分のところにありますが、民家を再生した小さなお店で、似たような路地で同じような民家が並び、見つけにくいかも。でも、散歩気分で誰かのうち遊びに行くような感覚で行ってみてください。

住所: 名古屋市昭和区長戸町 4-2

TEL: 052-853-0369

営業時間: 9:30 ~ 17:30 定休日: 日・月

駐車場: 3 台

カフェ



皆様からの情報をお待ちしています。

◆ 応募方法

◎ メールまたは FAX にて

E-mail: aozora@aichi-shien.net FAX: 052-954-6993

◎ 文字数: 1 情報につき 200 字以内

◎ 氏名・現住所・電話番号を明記してください。

(実名・匿名・ペンネームなど、掲載の表記希望をお知らせください)

※ 掲載時、こちらで編集したり、内容によっては掲載不可となる場合もあります。その他、相談させていただく場合があることを、ご承知おきください。

※ これらは、さまざまな方々から寄せられた情報を元に掲載しています。掲載された情報元にご確認のうえ、皆様の判断でご利用ください。